

日本化粧品学会誌執筆要領

(令和2年1月改訂)

1. 原稿の書き方

- 1.1 一般論文の形式はなるべく1. 緒言, 2. 方法, 3. 結果, 4. 考察とする(総括は省略)。ノート, 速報, 報告もほぼこれに準じ, 簡潔に書くこと。
- 1.2 論文を小刻みに分割しての提出は避けること。
- 1.3 文章は簡潔に常用漢字と現代仮名づかいを用いて書くこと。外国の人名, 地名, 会社名などは原則として欧文とし, これらは1字目を大文字として, 2字目からは小文字で表記する。
- 1.4 原稿は上下左右の余白を3 cm とし, MS明朝やMSゴシック等の標準的なフォント(フォントサイズ12)で作成する(和文の場合は30~35字, 英文の場合は70字程度, 1ページ25行程度)。なお, 英数字は半角とし, 半角カタカナは使用しない。

1.5 投稿シート

- 1) 上欄に一般論文, ノート, 速報, 報告の別を付記する。
- 2) 題目, 副題(題目が大題目の場合), 筆署名, 所属機関およびその所在地をそれぞれ和文および英文で記載する。なお, 筆署名の姓の欧文表記は大文字とする。
- 3) 投稿代表者(corresponding author)の氏名, 連絡先住所, 電話・FAX番号, E-mailアドレスを記載する。

投稿シートは原稿とは別にPDFファイルを作成する。

なお, 継続した研究を発表する場合は直前の報告の所在を下例に準じ, 脚注に加える。

[例] 注1) 前報: 化粧品誌, 2: 1 (1978)

1.6 原稿

- 1) 上欄に一般論文, ノート, 速報, 報告の別を付記する。
 - 2) 題目, 英文題目, 副題(題目が大題目の場合), 英文副題, 英文要旨, 和文要旨, キーワード, 本文の順に記載する。
- 1.7 英文要旨は論文の趣旨および結論を適切に表現すること。英文についてはネイティブチェックを受けることが望ましい。
- 1.8 論文中に出てくる物質, 事項などについて, その論文を検索する際に利用できるキーワードを英語表記で5個以内を選択し, 列記する。
- 1.9 行を改めるときは1コマ空けて書き始めること。
- 1.10 数字は算用数字を用い, 各種数値は次のように記すること。たとえば, 3分28秒, 1.5 cm, 1 cm², 0.5 mL, 1.8 L, 2.5 mg, 3.8 g, 5.3 mg/L, 37.2°Cなどとする。

- 1.11 本文中の語句に注を加える場合はその右カタに^{注1)}のように上ツキ記号を付け, 原則としてそのページの脚注に注1)として書き, 本文との間に線を入れること。注の番号は通し番号とする。

2. 用語

- 2.1 学術用語はなるべく最新刊の文部科学省学術用語集等によること。普通に用いられる外国語の術語はカタカナとする。
- 2.2 日本語で書くとわかりにくい場合は英語を併記のこと。印刷に際しての取り扱い編集委員会に一任のこと。

3. 記号, 符号, 数式など

- 3.1 記号, 符号は国際的に慣用されたものを, 単位は原則としてSI単位系を用いること。

[例]

長さ: m	電 流: A
質 量: kg	力 : N
容 量: L	圧 力: Pa
時 間: h	秒 : s
熱 量: J	熱力学温度: K
コンダクタンス: S	
物質質量: mol	粘 度: Pa·s
光 度: cd	表面張力: N/m

SI接頭語を用いて, その10の整数乗倍を示す(例 10³: キロ(k), 10²: ヘクト(h), 10¹: デカ(da), 10⁻¹: デシ(d), 10⁻²: センチ(c), 10⁻³: ミリ(m), 10⁻⁶: マイクロ(μ))。

- 3.2 数式は原則として, $\frac{a}{b}, \frac{a+b}{c+d}$ のように書くこと。

本文中に出てくる場合は a/b, (a+b)/(c+d) のように1行に書くこと。この場合 a/bc については a/(bc) のように必ず () を付け a/bc とはしないこと。

4. 図表

- 4.1 図はできるだけ簡潔に表し, 英文要旨を合わせれば論文内容が大筋わかるよう留意する。
- 4.2 同一のデータは表または図のいずれかで表し, 重複は避けること。
- 4.3 図(写真を含む)と表は表題, 説明などを原則としてすべて英文とする。図は下に Fig. 1, 表は上に Table 1 などと書く。図表はたとえばそれが一つしかない場合にも必ず Fig. 1, Table 1 とすること。
- 4.4 図中の記号は○, △, □, ◇, およびこれらの黒塗りなどで示すこと。図の掲載時の大きさは1/2~1/3(面積で1/4~1/9)になるので, 点の大きさには特に注意すること。
- 4.5 図表と写真は幅8 cm または16.5 cm (目安とし

て1点250文字に換算)とするが、特に希望があれば大きさを指定すること。

4.6 図中の文字は黒で書き、できるだけ記号を用いること。

4.7 図と表は一括して原稿の後に添付する。

4.8 図面ファイルの推奨解像度は、線画の場合、モノクロ1ビット(白黒2値)1,200 dpiのTIFFファイル、白黒写真の場合、8ビットグレースケール300 dpiのTIFFファイルとする。カラー写真の印刷を希望する場合は、24ビットRGBカラー350 dpiでの投稿を推奨する。

図面の電子データは、Word, PowerPoint, またはイラストレーターなどを利用し作成すること。

5. 参考文献

5.1 参考文献は重要なもののみにとどめ、本文中の引用する箇所に¹⁾や^{1,2)}または¹⁻³⁾のように上ツキの通し番号で示し、本文の最後に文献の見出しを付け、下の例に準じてまとめて記載すること。すでに引用した文献を繰り返す場合は引用する箇所に前出の番号を記すだけにする。

(雑誌掲載論文の場合): 筆者名: 題名. 雑誌名 (欧文名の場合はイタリック), 巻: 最初頁~最終頁, 発行年。

(編書の場合): 筆者名: 題名. 書名 (編集者名), 引用巻, 版数, 発行所, 同所在地, 発行年, 最初頁~最終頁。

(単行本の場合): 筆者名: 書名, 発行所, 同所在地, 発行年, 引用頁。

(WEBの場合): 筆者名: ウェブページの題名. ウェブサイトの名称, 入手先 (URL), 閲覧日。

5.2 参考文献の略し方はCAS Source Index (<https://cassi.cas.org/>)を参照すること。

5.3 複数の筆者名を列記する場合, “,” (カンマ)でつなぎ, 筆者名の間にandを入れないこと。

5.4 通しページの付いていない雑誌から引用する場合は号数を()内に示すこと。

5.5 参考文献転用の場合は明示すること。

5.6 筆者自身の未印刷の研究を引用する場合は, 筆者名, 投稿誌名の後に「投稿中」または「in press」などとし, 必ず題目を記載すること。

5.7 英文の場合, 和文誌名は英語でなくローマ字

(例: Nippon Koshohin Gakkaishi)で記すこと。

[例] 1) 岡田穰伸, 矢尾板英夫: ヒト閉鎖貼布試験に関する研究. 日皮会誌, 106: 421-429, 1996.

2) 高橋元次: 表皮画像解析. 現代皮膚科学大系 (石橋康正, 今村貞夫, 田上八朗, 西川武二, 吉川邦彦編), 年刊版, 90-B, 中山書店, 東京, 1990, pp. 13-27.

3) Hamilton, J. B., Terada, H., Mestler, G. E.: Greater tendency to acne in white American than in Japanese populations. J. Clin. Endocrinol., 24: 267-272, 1964.

4) Olesen, E. A.: Embryology and Anatomy of the Hair Follicle, Disorders of Hair Growth, Diagnosis and Treatment, McGraw Hill, Inc., New York, 1994, pp. 1-19.

5) Bickers, D. R., Pathak, M. A.: The Porphyrrias. In: Dermatology in General Medicine. (Fitzpatrick, T. B., Eisen, A. Z., Wolff, K., Freedberg, I. M., Austen, K. F. Eds.), 3rd edition, McGraw Hill, Inc., New York, 1987, pp. 1666-1715.

(翻訳本の場合)

6) カール・ラーデン, カール・B・フェルガー: 制汗剤とデオドラント (大場健吉監訳), フレグランスジャーナル社, 東京, 1995, pp. 317-318.

(WEBの場合)

7) 「光老化」啓発プロジェクト委員会: 「光老化」認知度調査 第6回 (2018年8月) 結果報告, 光老化啓発プロジェクト: 肌の光老化ご存知ですか?, https://www.hikari-rouka.org/news/news_20180927/, (2019年9月27日閲覧)

6. 掲載論文原稿の提出

6.1 受理された論文の掲載にあたっては, 最終原稿を作成し, 日本香粧品学会編集事務局宛に電子データで提出 (メール添付または郵送) すること。なお, 電子データはPDFと元となったデータ (Word, Excel, PowerPoint など) を提出すること。